

輝人

かがやきびと

このコーナーでは仕事やプライベートで
“輝く人”を紹介します。
第39回は、ドラッグアカカベ住道店で
活躍する、清水 涼平さんを
クローズアップします！

穏やかに、朗らかに。 自分ができることを、ただひたすらに。

アカカベで知った接客業の魅力

アカカベとの出会いは大学時代のアルバイト。働きやすい職場環境と、お客様とのやりとりが楽しくて、気が付けば4年が経っていたという。アカカベで接客の楽しさを知り、大学卒業後も小売の世界へ進んだ清水さんだが、就職先のスーパーではアカカベのような接客ができなかったと当時を振り返る。「ドラッグストアよりも客数が多いスーパーでは、アカカベのようにお客様お一人おひとりに寄り添った接客をする余裕はなく、淡々と対応をする毎日でした。“石の上にも3年、しんどくても3年は頑張ろう”と自分を鼓舞しながら頑張りました。」

すべてが報われた、 お客様からの「ありがとう」の言葉

前職を退職し、アカカベにカムバックした清水さん。アカカベに入社して約半年が経った頃、新型コロナウイルスの感染拡大が始まる。「マスクや消毒液などを求めて店舗にお客様が殺到され、通常とは違う日々が始まりました。マスクの在庫をひたすら質問される毎日は、アカカベでやりたいと思っていた接客とはかけ離れたものでしたが、誰かのために自分にできることがあることが嬉しく、無心になって対応をしました。」2021年7月にかけて感染者数が爆発的に拡大した第6波、アカカベは行政からの要望に応え、自宅療養をする患者様への物資供給やお弁当配達に対応を始めた。本部地下駐車場で連日実施した自宅療養セットの梱包作業や、ニコニコキッチンでのお弁当配達業務に、清水さんは応援スタッフとして協力した。困っている人の役に立ちたいという一心だったと清水さんは当時を振り返る。「お弁当の配達



清水さんのモットー

人に優しく（自分がされて嫌なことは人にしない）

清水 涼平
(しみず りょうへい)

2019年9月11日入社
大学時代の4年間、津の辺店でアルバイトスタッフとして活躍。
接客業に魅力を感じ、大学卒業後は小売業界へ進む。2年前にアカカベにカムバックし住道店に配属。
コロナ禍に当社が取り組んだ自宅療養セット作成や配食サービス事業の応援スタッフとしても活躍した。

は、感染リスクの面から利用者の方と顔を合わせることなく、玄関の前や指定された場所に置かせていただくのですが、ある時容器の回収に何うと、空になった容器の中に御礼の手紙が入っていました。綴られた感謝の言葉の数々に、それまでの苦労が一瞬で報われました。自分が配達していたお弁当は、誰かの命を繋ぐ食事だったんだと気づくことができました。」

アカカベだからこそ描ける、 未来のキャリアチェンジ

パート社員として入社し、契約社員、社員へとステップアップを果たした清水さん。いつも少し先の未来を見据えた指導をしてくださる寺本店長に感謝していると言う。「店長は、ポジションが上がった時に相応の対応力が備わっているようにと、いつも少し高めハードルを設定してくださるんです。ハードルを越える過程は大変ですが、昇進等で業務の幅が広がった時に、慌てることなく対応できています。」目下の目標はもちろん店長になることだという清水さんだが、幅広い事業

を展開するアカカベで、キャリアチェンジに挑戦できるタイミングが来れば、やってみたいことがあるという。「保育園事業、児童保育に興味があります。ドラッグストアを経営している会社に入社したのに、将来保育園に携わることがあるかもしれないと思うとワクワクしますし、アカカベだからこそ描ける未来だと思います。」

来春に予定している 結婚式が楽しみです！

昨年は、登録販売者試験、結婚、そして社員へのステップアップと公私ともに変化の多かった清水さん。幸せそうに近況を話す姿から、充実した様子がうかがえる。「子供が大好きなので、早く子供が欲しいと思っています。僕も妻も双子に憧れがあって、双子の育児ができたら幸せだなという話しています。きっと大変だと思いますが(笑)。コロナで結婚式がまだできていなかったのですが、来年の春に式を挙げる事が決まりました。すでに今から緊張していますが、とても楽しみです！」